

住民協働推進事業 一覧

| | 事業名 | 団体 | 代表者 | 内容 | 活動期間 | 年数 | 協働部署 |
|---|---|----------------------------|-------|--|--------|----|--|
| 1 | <p>【H24】 子育て講座実施事業</p> <p>【H27】 みんなでアソビバ!</p> | NPO法人みんなでネットワーク ういっくす播磨 | 諸鹿 良治 | <p>【H24】 子どもが健やかに育つことができる環境づくりとして、地域で子育てへの関心を高め子育ての孤立化を防ぐために、子育て支援を行っていく。その一つとして、親支援の「子育て講座」を開催し子育てのしにくさを子育てがしやすく、楽しみながら、親も成長できるように支援を行う。また、父親の育児への関わりを進めるため、パパネットワークを構築し、支援する。 また、子育て支援者のネットワークも立ち上がってきたので、支援者間の連携を行う。</p> <p>【H27】 子どもたちの安全で安心な居場所づくり、地域の教育力等の向上等を目的に、放課後の子どもの居場所として毎週金曜日15時から東部コミュニティセンターで、「みんなでアソビバ」を開催し、子どもたちが自分でやりたいことを見つけ、友だちや地域の大人と交流しながら自由に過ごせる場を提供した。</p> | H24、27 | 2 | <p>【H24】 福祉グループ</p> <p>【H27】 生涯学習グループ</p> |
| 2 | <p>【H27】 “知って生かそう体力診断”事業</p> <p>【H28】 少年少女スポーツ選手メディカルチェック事業</p> <p>【H29】 少年少女スポーツ選手メディカルチェック ～青少年のスポーツ障害予防～</p> | NPO法人スポーツクラブ21 はりま | 佐伯 正道 | <p>【H27】 体力診断を行うことで、今の自分状況を把握し、健康な生活のためへの、自分にあった運動を始めるきっかけづくりを行う。</p> <p>【H28】 青少年の健全育成のため、スポーツは有効な手段であり、様々な活動が行われている。指導者や保護者には、事故や怪我が発生しないよう、正しい知識による適切な指導が望まれる。当該事業により、現状を把握できるとともに、トレーニング指導やセミナーなどを実施することで、指導者や保護者への普及啓発が進むことが期待できる。具体的には、小中学生を対象に肘関節の超音波検査を行い、異常の早期発見・早期治療を促す。あわせて指導者や保護者向けのトレーニング指導やセミナーを行い、予防を訴える。</p> <p>【H29】 町内で活動する小学5年生以上中学生以下の、野球・ソフトボール・ハンドボールなどのボールを投げる種目のスポーツ選手を対象に、肘関節の超音波検査を中心とした上肢のメディカルチェックを実施する。続いて、バレーボール・バスケットボールや武道系など、すべての種目を対象にした下肢のメディカルチェックを実施する。それぞれで障害の疑いが見つかれば、医療機関での2次検診を促す。また、スポーツトレーナーによる怪我予防のためのストレッチ・トレーニング指導を選手・指導者を対象に行う。 また、指導者や保護者に対して講演会を開催予定としており、長時間練習の弊害を喚起し、「安全で楽しく」スポーツ活動を提唱していきたい。</p> | H27～29 | 3 | <p>【H27】 すこやか環境グループ</p> <p>【H28～29】 生涯学習グループ</p> |

住民協働推進事業 一覧

| | 事業名 | 団体 | 代表者 | 内容 | 活動期間 | 年数 | 協働部署 |
|---|---------------------------------|-------------------|--------|--|--------|----|----------------------------|
| 3 | 「寄り添って子育てすれば楽しいよ」事業 | 播磨町地域の子育てに寄り添う会 | 守田 連雲子 | <p>【H27】 母親の出会いの場及びグループづくりを促進し、子育ての孤立化や子育て支援センターの利用促進に繋げる。子育て家庭の自主力の向上及び地域医療者との関係強化。</p> <p>【H28】 平成27年度実施の乳児健診の際に、小さな座談会を実施。(健診後、希望者が残って医師を交えての話し合い)そのあと、2週に渡って、集いを行いグループ化。今年度もこれを継続実施するのと、座談をもっと広く参加者を集めるよう、広報等で募集し、医師を交えての子育て井戸端会議(座談会)を実施。</p> | H27～28 | 2 | すこやか環境グループ |
| 4 | 文化財登録制度の推進による身近な歴史的・文化的資源の保存と活用 | 特定非営利活動法人ヘリテージはりま | 清水 克俊 | 文化庁による「文化財登録制度」と制度を利用した事例を紹介することで身近な歴史的・文化的資源を後世に幅広く継承していくとともに、文化財を地域の財産として活用していくための地域への理解のきっかけづくりを行う。 | R1 | 1 | 生涯学習グループ |
| 5 | 文字による 対話支援サポーター養成事業 | はりまデザインラボ | 早野 智夫 | 誰一人情報から残されることのない共生社会を目指し、それらを播磨町から発信する。まず町内の研修会などでの文字支援を実施する。さらに、個別支援として、補聴機器・ICT活用も取り入れながら受講生は多様な支援技術の習得を重ね、一人一人に合った文字支援へと発展させる。 | R1 | 3 | 福祉グループ |
| 6 | | チームW(うえすと)・研修センター | 楠瀬 樹宜 | | R2～3 | | 【R2】福祉グループ 【R3】生涯学習グループ |

住民協働推進事業 一覧

| | 事業名 | 団体 | 代表者 | 内容 | 活動期間 | 年数 | 協働部署 |
|---|-------------------------------------|------------------------|--------|--|------|----|------------------------------|
| 7 | 発達障害の理解とかかわり方を当事者家族から発信するペアメンター養成事業 | NPO法人文化・福祉・人権サポート アエゾン | 政本 和子 | <p>新型コロナウイルスにより学校も通所施設も休業になり、障がいのある子供と家庭で過ごすことが増えた中で、改めて専門家や外部に頼る子育て、療育のあり方を見直し、当事者家族としてのあり方を学ぶ視点から、合計6回の研修講座の企画と運営を行った。</p> <p>また、講座は録画・編集のうえyoutubeにて限定配信を行っており、講座資料についてもLINE等を通して事前配信を行っている。将来的には研修を通してスキルを身に着けたペアレントメンバーで啓発キャラバンを結成し、周りの全ての人に情報を発信・配慮を身近に学ぶ場をつくり、より住みよいまちづくりにつなげることを目標にしている。</p> | R2～3 | 2 | 【R2】福祉グループ 【R3】すこやか環境グループ |
| 8 | Harima Public Life | Harima Public Life | 宮内 龍太郎 | <p>近年、まちづくりや都市計画の分野で注目されている「身近な日常の場を楽しむ」ということを公開型の事業として企画し、町内の公園や遊休地を活用し、①公園の可能性とその活用法を町民へ示すことによる利用率の向上と②コロナウィルスを機に町内での滞在時間が増えた勤労層・若手層のネットワークづくりを目的に企画・実験を行った。</p> | R2 | 1 | 企画グループ |